

ガバナーアドレス

88周年を迎えた 日本海コンプリート・バトルと ロータリークラブの創立

ガバナー 緒方 基一

2月23日のロータリー創立記念日に因んで、月信2月号に寄せた本文が、印刷ミスで原稿を取違えられ、廃棄されました。

先ず、その史を断て

一国を滅ぼさんとすれば、先ずその史（歴史・国史）を断て、という言葉があります。我々老人は皆が知っている歴史も、戦後は上記の占領方針に従って、失われてしまっているという感が致しますので、敢えて奇異な感をされる標題をつけました。

正朔を奉ず

ロータリーの文献は総て西暦で書いてあります。処が私には1905年と言われても、数字は判りますが、時代感覚が掴めません。日本の年号に引き直して、明治38年と言うことを知って、その時代感覚が判ります。

明治生まれ、大正生まれ、昭和一桁代などの表現が出てくるわけです。

この理由づけに「正朔を奉ず」という言葉を使っています。「正」は年の初め、「朔」は月の初め、つまりその暦を奉ずることは、その治政下に在ることを示すものであり、足利義満は明国貿易の利を狙って、明国の年号をその手紙に書いたので、後世の史家の批判を受けたことあり、その轍を踏まない様にしよう、と言うものです。

ロータリー創立記念日

此の様な古い頭の老人の説いた「ロータリー創立記念日卓話」は恐らく前代未聞の文でありましょう。或いはその故を以てかと思うのは老

人の癖み。2月では不採用、3月・4月には掲載の理由なし。其処で5月27日の日本海海戦の88周年を利用して再浮上という次第。

それは1905年の2月23日の夜、4人の方々が米国シカゴ市のディアボーン街にある17階建のビルユニティビルディングの7階-711号室に集まって、ロータリークラブ結成の話し合いをしました。則ちロータリー創立総会の日であります。依ってこの日を「ロータリー創立記念日」と国際ロータリーでは定めています。

4人とは、

弁護士のポール・P. ハリス

Paul Percy Harris

石炭商のシルベスター・シール

Silvester Schiel

鋳山技師のガスターバス・E. ロアー

Gustarvus E. Loehr

洋服屋のハイラム・E. ショーレ

Hiram E. Shorey

の4名でありました。

当時のアメリカ、とくにシカゴは大火につぐ経済恐慌で、人心はすさみ、犯罪は巷に満ちて、実業界の情勢は冷酷そのもので「自己保全こそ第一だ」という様な事しか考えられない風潮に侵されていました。

則ち、友愛と商売の間には、溝があると考えられていましたが、此の4人は之に友愛の橋を架けることが可能であると信じ、人々の和をはかり、世の中に奉仕する気持ちを多くの人の心に醸成し、社会を良くして行こうと思う人々の

クラブ……ロータリークラブを結成したのであります。

第二回目の会合は3月9日で、此迄の間に更に2名の会員が入会しています。

印刷業のハリー・ラッグルス

Harry Ruggles

不動産売買業ウィリアム・ジェンスン

William Jensen

であります。

此の第二回目の会合は3月9日ポールハリスの法律事務所で開催されたが、会合は各会員の職場を持ち廻りで開くことが定められた。

第三回目の会合は3月23日にシルベスター・シールの石炭置場で開かれたが、この時、役員任命、定款の作成・クラブ名の決定があった。

初代会長には皆がポール・ハリスを推しましたが、ポールは固辞して、シルベスター・シールが初代会長を務めることになりました。又、初代幹事はウィリアム・ジェンスン、初代会計はハリー・ラッグルスと決めました。

ハリー・ラッグルスは例会に歌唱を取り入れたことで有名で、ロータリー拡大に著名な功績があったので、シカゴRCでは「ベテラン・パイオニア」と呼ばれました。

以上6人をApostles of Rotary（ロータリーの使徒）と呼ばれています。

1905年は明治38年に当る

此の1905年と言いますと、我が国では明治38年に当り、前年の明治37年2月に勃発した日露戦争の真っ只中でありました。特に、旅順の要塞攻略戦は激戦で、乃木司令官は自分の二人の息子を此処で戦死させています。明治38年1月1日旅順要塞は開城となりました。

奉天会戦の序盤戦は2月22日、我が軍の右翼、鴨緑江軍の攻撃を以て始まりました。ロータリー創立日の前日であります。

第二次大戦敗戦の結果、日露戦争も日本の侵略戦争の一端のように言われますが、ヨーロッパのロシア帝国の勢力がシベリアを東に進み、満州・朝鮮と南下侵略して来るのを防ぐ戦いで、正に日本の存亡を賭けた戦いでありました。

此の奉天大会戦の両軍の兵力を比較すると、日本軍249,800人、ロシア軍367,200人という、

正に2:3の劣勢に拘らず善戦、包圍戦で圧勝した会戦であります。

日本軍の大勝利だった此の奉天大会戦は、3月10日で、此の日は陸軍記念日と定められておりました。さきに述べたロータリーの第二回目の会合、3月9日の次の日であります。

世界的には、日本の陸軍記念日より、5月27日の海軍記念日の方が有名のようであります。

5月27日の日本海海戦は、Complete Battle（徹底的戦い）とかPerfect Game（完全な戦い）とか呼ばれていますが、対等な艦隊同士の決戦で、全く一方的な大勝利の海戦は、世界の海戦史にも珍しいと、言われています。

則ち、日本海海戦何周年記念と、ロータリー創立何周年記念とは、年数が全く合致することを申し上げたく、特に此の日露戦争のことを少々詳しく申し述べた次第であります。

ロータリー運動の拡大

斯うしてスタートを切ったロータリーでありましたが、初期ロータリーの「会員相互扶助」の原則は、会員以外より之を見れば、ロータリークラブのエゴイズムに外ならないと批判されることもありました。

之に対する反省として、シカゴRCは地域社会にも貢献するものであることを、シカゴ市内に公衆便所を提唱することによって示しました。此の運動は、地域社会の各種団体やシカゴ市議会をも動かし、3ケ年の歳月を費やして成功したものであります。（1907年）

ロータリーの運動は、単なる机上の理論に終わることなく、理想の灯を掲げると共に、先ず実践運動を起し、之を反省して理論づけをし、更に前進する、という方式の原型を見ることが出来ます。

1908年、アーサー・フレドリック・セルドンがシカゴRCに入会してより、ロータリー運動の理論武装が急速に進展し、ロータリーの本質を一つの標語に表現しました。

「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる」（He profits most who serves best）と。

Profits と言えば、普通には儲かると訳し、物質的には利益を追求するものの様に解される向きもありますが、要は奉仕を讃えたものであ

り読む人の心によって、どうにでも解されましよう。要は奉仕です。

同じ頃、フランク・コリンズ(Frank Collins)が「奉仕だ！自己ではない」(Service, Not Self)の標語を作りました。(自己ではない)は(利己ではない)と訳したほうが判りやすいかも知れません。

後に「自己を超越した奉仕」(Service Above Self)と改めました。

斯うして先ず実践的に、ついで理論的に整えられたロータリーの運動は世界中の共鳴を得る事となり、現在185の国家及び地域に26,000のクラブ、115万の会員数を誇り、世界の平和に寄与する組織体となりました。

則ち、ロータリーの宗教的とも言うべき倫理観は、ポール・ハリスが幼年期を過ごした祖父母の許で受けた、敬虔なピューリタンの祖父母の精神地盤の上に、之を超克し、一宗一派に属しないロータリーの倫理観が確立されたもの、と見るべきでありましよう。

之は、大分県日出町出身で大阪RC草創期に米山梅吉氏共々尽瘁された土屋元作氏の提唱された如く、著しく東洋の思潮でもあったので、日本に於いてのロータリーの隆盛が見られたものと思えます。

ロータリーの心は「敬天愛人」である、と提唱しましたのも、其の謂に他ありません。

世界理解月間について

交換学生の受け入れ

ロータリーは「先ず、実践だ！」という事を聞きますが、このことを実感したのが「交換学生の受け入れ」でありました。

今でこそ、そういう事業も各種団体で実施されていますので、そう珍しいことではありませんが、20数年前までは、本当に未だ珍しい事だったので、大分新聞種にもなりました。

八代クラブで最初に受け入れた交換学生は、バーバラ・レインという女の子で、アメリカ・ニューヨーク州から来ました。

昭和44年7月、彼女は八代へ来ましたが、高校2年の可愛い女の子でした。受け入れ学校は、八代第一高校が担当されました。

彼女は、私の娘達と同じ年頃、次女と三女の

間の学年・年齢でしたので、子供達間の文通は、彼女の来日前より始まり、彼女が到着した時は、既に子供達は旧知の間柄の様でした。受け入れもスムーズだった様です。

私は、保護者の立場で、私の5人の娘達には、「教育勅語を暗誦しなさい」、アメリカの子供には、彼の「リンカーンのゲティズバーグのアドレスを、アメリカに帰るまでに暗誦しなさい」と命じました。

以後在日一ケ年の間、預かる家庭は、私の家を始めとして、4家庭でありましたが、始終私が監督者の立場で、勝手な振る舞いはさせないように、日本的な厳しい教育をしました。それでも良く私の家を慕ってくれました。私に良く反論もしましたが、最後は必ず、私の言う事に従ってくれました。質素な生活をしていた私の家庭では、交換学生の健康を気遣い、家族の全員が心より彼女を大切にしました。

アメリカに帰って、17年後突然、今度は赤ん坊を抱いて尋ねて来たのには驚きました。里帰りのような気持ちで来たのでしょうか。

その2～3年前には、彼女の父親・母親夫妻が旅行の途中と言って、日本語は一つも知らないのに、突然尋ねて来たのには、これ又びっくりいたしました。お互いに全くの他人では無いような気分になって了いました。

彼女が未だ交換学生で在日の初め頃、叔父の皮膚科の医者が、「アメリカの学生を家に置くなど、変なこと止めたが良い。我々は、鬼畜米英と言っていたではないか。私の家には絶対連れてくるな」と言いましたが、そのうちに彼女に湿疹が出来たため、皮膚科医の叔父に引き合わせました。

叔父は一目で微笑してしまい、「アメリカ人と言っても、こんな可愛い娘か。思い違いをしていた。これからもビーフステーキを食べに度々遊びに連れて来る様に」と変わって了いました。之は大した民間外交であると思えました。

斯んな事(交換学生)がもっと早くから出来ていたら、あの忌まわしい戦争なども起こらなかつたのではないかと、思いました。

その後も交換学生は続きましたが、クラブ財政上、毎年という訳にも参らず、八代RCでは

受け入れ交換学生7名、日本の子女で米国へ送り出したもの6名となっています。

之等のことも、ロータリーの組織があって初めて出来たことであります。

ロータリーの国際理解

斯様な事を申し上げますと、ロータリーはいかにもコスモポリタンみたいな事を考えている様にとられるかも知れませんが、ロータリーの国際奉仕は先ず自分の国を愛し、大切にします。そう言う人でなければ、他国の立場も考えて之を大事にすることは出来ない、という観点に立脚しております。

以前、最初に見た手続き要覧には、ロータリアンに休暇が認められるのは、国家非常の際、兵役に服している間、応召の期間内のみ、休暇が認められる、と書いてあるのを見ました。

ロータリークラブの問題点

ロータリーは良い。故にロータリーの良さを自分達だけで享受して、他の方に其の機会を与えぬ事は宜しくない。そういう信念で、ロータリーは、其の拡大を図ります。

然し、拡大するとその反面、会員の中には質の良くない者も混在することになる、という問題があります。

一般的に、あの方はロータリークラブに入会していると言うと、一応その方の社会的信用度、地位判断の資料ともなります。そういうロータリー運動の輝かしさによる名譽と信用のみを欲しがめる者が現われてくるということが言われます。

然し、本当に質の良くない人と言われる様な方は少ないのではないかと思います。先輩ロータリアンの方々の教育が足りなかったのではないか。ロータリーには形式上入会はしたが、未だ本当のロータリアンになれずに右往左往しておられるのではないか、と思います。入会当初、出席の義務を教え、義務という受け身の考えから、それが面白みに変わる迄、教えこまなかったのではないか、と反省します。

鉄は熱いうちに鍛えよ！であります。入会1～2年の内に、ロータリーにはなにか良い処がある……もっとロータリーを勉強しよう、と思ひ立たせる機会、或る人は之を「ロータリーの

インスピレーション」と言われましたが、之に遭遇される機会を先輩方は、作ってあげる事こそ大事であると思います。

論語に『之を知る者は、之を好む者に如かず、之を好む者は、之を楽しむ者に如かず』という文言があります。

此の極意はロータリーにも通ずるものと思います。よくよく玩味したい文言であります。

簡易ロータリー年表

- (1) 1905年(明治38年) ロータリー誕生
奉仕の概念なし、寂しくて、友人が欲しかった(自己中心主義)
- (2) 1910年(明治43年)
アーサー・フレデリック・シェルドン
「最も良く奉仕するもの最も多く報いられる」
フランク・コリンズ
「超我の奉仕」
奉仕の概念生ず
(1950年 デトロイト大会で正式に採用)
- (3) 1923年(大正12年) 決議23-34号
第1パラグラフ ロータリーの哲学
第4パラグラフ 実際的な行動
ロータリーが出来るとその町は良くなる
東京大震災 9月1日
- (4) 1992年(平成4年) 決議92-286
社会奉仕に関する新声明
団体奉仕も推奨すべき事
- (5) ポール・ハリスの言：

我々の思想は、硬化してはならない。我々はいつ迄も成長して、止むことは無いであろう。この世界は絶えず変化している。そして、我々は世界と共に変化することを用意しなければならない。ロータリーの講話は繰り返さざるをえない。

